



昼間の気温はまだまだ高いですが、朝晩の気温がぐっと低くなり、虫の音の合唱が心地よく聞こえる季節となりました。2学期が始まり、ひと月が過ぎた今、夏の疲れが出て来る時期でもあり、子どもたちのストレスもピークに達していると思います。「生活リズムを保つこと」「ちょっとした時に話を聞いてあげること(お風呂等)」「周りの大人も含めてストレスをためないこと」で、少しでも子どもたちのストレスが解消されると思います。

長い2学期ですが、ご家庭でも、励ましの言葉かけをお願いいたします。

あいさつする子  
しっかり学ぶ子  
たのしく遊ぶ子

## 9/8, 15, 26 **1年生水泳授業**

1年生の水泳授業が、貝塚スイミングで行われました。1年生は、初めての水泳授業です。貝塚スイミングでアニメーターの指示にしたがって、グループにわかれて楽しく授業を受けました。

学校から貝塚スイミングまではバスで移動。到着すると、グループに分かれ、更衣室に着替えを置いて、シャワー。「キャー、キャー」と大はしゃぎ。アニメーターの注意も何処吹く風。でも、入水し、説明を受けるときは、真剣な表情に。ワニさんになったり、カニさんになって、水に慣れていきます。顔もつけられなかった子どもも、知らず知らずのうちに、水の中に。そして、あっという間に時間が過ぎ、帰校時間。教えて頂いたアニメーターの方々に、しっかりお礼を言って、バスに乗り込みます。



学校に着くときには、少し疲れた様子。でも、充実した笑顔で「楽しかった。」と感想を言ってくれました。

## 9/15 **戦争朗読会**



6年生の平和学習のひとつとして、戦争体験者の方たちが残してくれた作品を、朗読グループ「さるびあ」さんが、体育館で披露してくれました。

爆撃機の音や被爆者の様子を動きでリアルに表現し、話が進むにつれて、子どもたちは、だんだん引き込まれていきました。朗読劇を見た後、子どもたちは、「広島でしっかりと学びたい。」という気持ちをさらに強めました。この後も、平和学習は続き10月12日(木)、13日(金)の修学旅行当日を迎えることとなります。



## 9/13 **集団下校**



2学期は地震を想定して、集団下校訓練を行いました。不審者、大雨、台風、地震等で、いつ急な下校が必要となっても、子どもたちが慌てないように、下校色別のグループと「なかよし」に行くグループに分かれ、教師が付き添って下校しました。

1年生は一学期に続き、二回目とあって、少し慣れた様子。上級生について、一生懸命訓練を行い、戸惑うことなく下校することが出来ました。集団下校をする事案が発生しないのが一番ですが、「備えあれば憂いなし」です。



## 9/12 **折り鶴集会**



修学旅行に向けて6年生が全校集会で「原爆の子の像」のモデル、佐々木禎子(さだこ)さんのお話を朗読しました。

禎子さんの死をきっかけに同級生たちが、原爆の恐ろしさや、戦争の悲惨さを人々に伝えようと、「原爆の像」を作るための募金活動をする話や、その後、その話が、平和の折りをのせて、世界中に広がったという内容でした。1年生から6年生全員が静かに聞き、集会後、6年生が各学年をまわり、折り鶴の作り方を教えていました。

みんなが、心を込めて折った折り鶴を広島に持って行きます。



## 9/21~30 **秋の交通安全**

毎日、ポイントに立って交通安全指導をして頂いている「子ども安全見守り隊」の方々に加え、21日~30日は、地域の方々、PTAの方々、教職員、みんなで登校の様子を見守りました。

東山の子どもたちは色々な方々に見守られて、元気に育っています。

ご協力、ありがとうございました。



## 9/19 **火災避難訓練**

運動場への一斉避難を実施しました。子どもたちは、迅速に行動し、集合までに3分、人員点呼終了までに5分という短さで、各教室からの避難を終えました。避難が終了した後、ポンプ車での放水の様子に子どもたちは、「うわあー、すごい水の威力やなあ！」と歓声を上げていました。

次に、初期消火訓練として、先生3人と6年生5人が実際に消火器を使った訓練を行いました。その後、消防署の方から、通電火災についてのお話を聞きました。

休憩時間には、1年生が消防車の見学を行い3時間目には、3年生が聞き取り学習をしました。



## お願い

○やむを得ず自動車で送迎される場合は、正門前の道路に、駐停車せず、体育館前の駐車場に止めてください。

○田畑や空き地に勝手に入って遊んだり、道路や駐車場などで遊んだりして、大変危険であるとのことご意見を地域の方から頂いています。危険な遊びや人の迷惑になることはやめるように学校では指導をしています。ご家庭でも、同じような指導をお願いします。

## 東山の笑顔満開!!!

登校の道すがら、子どもからの言葉。「校長先生、俺の子どもも東山に通わせたいねん。」「ふーん。そうなの。あと20年くらいかかるね。でも、なんで東山に通わせたいの?」「僕、東山好きやねん。でも、その時校長先生は、おらんね。」とのこと。朝から、とっても嬉しく胸が熱くなりました。そして、子どもの期待に添える東山にしなければならぬと、決意を新たにしました。

